

アカデミックスキル
支援センター

レポート

授業サポートに向け夏期研修会

「アカデミックスキルⅡ」 控えリーダー学生

後期開講の全学必修科目「アカデミックスキルⅡ」（1年次生）を支えるリーダー学生の夏期研修を16日（火）、17日（水）の2日間、キャンパステラスで行い、7人の学生指導員が、先輩にあたるアカデミックスキル支援センターの学生指導員らの支援を受けながら、授業の先取り学修や内容の検討を行いました。

初日は、アカデミックスキルⅠ（前期）で学んだメールマナーの確認をした後、体の仕組みを寸劇仕立てで小学生に向けて発表した科目課題の振り返りを行いました。リーダー学生からは「収集した情報からアウトラインにする作業が難しかった」「どこまでサポートしたらいいかわからないことがあった」などの反省が聞かれた一方で、「自信をもって人前で発表できるようになった」「相手の話を聞くことができるようになった」といった前向きな発言も相次ぎました。

2日目は、ライティングに特化したアカデミックスキルⅡの概要説明を受けた後、課題となる「このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」と憲法との関係について、外部指導員で元東京高裁判事の河村潤治さんが講話。主に憲法13条（個人の尊厳）を柱に語りました。引き続き、学生指導員も加わり、グループ討議を交えながら問い（論点）の立て方などについて理解を深めました。

アカデミックスキル科目は、学生指導員やリーダー学生が受講学生との橋渡し役となり授業内容や教材開発の段階から関与していることが大きな特徴です。アカデミックスキルⅡの開始後、リーダー学生は週2回程度の課外研修を継続して受講。その成果を各クラスに持ち帰り、受講学生のサポートにあたります。（NL編集部）



写真上は、リーダー学生らに研修の狙いなどを説明する授業担当の渡邊淳子教授（中央）。同下は、赤ちゃんポストについて憲法の観点から語る河村さん

人材育成テーマに
中堅職員が研修会

2日目のフォローアップ研修を受ける各大学の
中堅職員

大学コンソーシアム熊本の中堅職員研修が4日（木）、5日（金）の両日、キャンパステラスで実施され、本学を含む8大学の職員が講義やグループワークなどを通じ、人材育成や業務への向き合い方などについて知見を深めました。

人材育成をテーマとした初日は、本学からの8人を含め17人が参加しました。2人の外部講師がキャリアデザイン、コミュニケーションスキル、コーチングの基本などについて講義。各講義を挟む形でグループワークも取り入れられ、4班に分かれた参加者が活発な意見交換を行いました。

2日目は、前年度の研修参加者を対象としたフォローアップ研修で、本学の2人を含め13人が参加。各受講生によるこの1年間の取り組み事例の発表に続き、講義では、与えられた時間内に的確かつ高い精度で課題をこなすための思考法、いわゆる「インバケット思考」を中心に学びました。

（NL編集部）

ピーク迎える就職活動

3、4年次生 参加110医療機関に熱視線

就職・実習支援課では9日（火）、10日（水）、リハビリテーション学科3、4年次生（学外実習期間中の作業療法学専攻3年除く）を対象としたWebリアルタイム形式の合同就職説明会を開催しました。

施設情報を把握するとともに、自分の職業観を再確認し、進路決定の一助としてもらうのが狙い。今年は110（県内44、県外66）の医療施設の参加を得て、Zoomを通じて各施設の業務内容や採用情報などについて説明してもらいました。

学生からは「今まで知らなかった魅力的な施設に興味を持ち、見学へ行ってみたいと思える機会となった」、施設からは「真剣に耳を傾ける姿や熱心にメモを取る様子から、強い関心と前向きな姿勢が伝わりました」などの感想が聞かれました。

これからリハビリテーション学科4年生の就職活動がピークを迎えます。今回の経験を糧にして、希望する施設への内定を勝ち取ってほしいと思います。

（就職・実習支援課）

「学生が成長実感できる大学に」

「学修評価」をテーマに 本年度第1回FDセミナー

令和7年度第1回FDセミナーが11日（木）、1501講義室Mで開かれ、熊本大学大学教育統括管理運営機構の川越明日香准教授が「学修評価の基本的な考え方」と題して講演しました。

川越准教授は、コロナ禍以降、学生たちの学習時間が減少していると指摘。先行きが不透明で、変化が激しく、未来の予測が困難な時代（VUCA時代）においては「教員たちが時代に適応し、学生たちをどう引き上げるか考える必要がある」とし、「学生がどう成長したか、学生自身が実感できる大学でなければならない」と話しました。

また、川越准教授は、学習成果のはかり方として、結果だけでなくプロセスも評価できる基準「ルーブリック」を紹介。参加教員たちは、川越氏からの質問に答えたり、ルーブリックに実際に書き込んだりと、積極的にセミナーに参加していました。（NL編集部）



学修評価の基本的な考え方をテーマに行われた
本年度第1回FDセミナー

銀杏アラカルト

■高校生、参加型授業で作業療法学ぶ

熊本国府高校（熊本市中央区）の1年生74人が17日（水）、本学を訪れました。一行は入試・広報課職員から本学の概要や学科・専攻についての説明を受け、図書館や実習室など、学内の各施設を見学。その後行われた模擬授業では、作業療法学専攻の安田大典教授が「【作業療法について】自分で選択し、好きなことが出来ることの幸せを体験してみよう！」と題して講義を行いました。授業の途中に行われた豆つまみ競争では、箸と自助具を用いて、つまむ豆の数に差が出るか体験する様子も。参加型の授業ということもあり、生徒たちは楽しく自助具や作業療法について知識を深めていました。（入試・広報課）



「難しいな〜」。豆つまみ競争に挑む高校生

週間行事予定（9月22日～10月6日）	
9/24（水）	後期ガイダンス
9/25（木）	水俣高校来学、後期授業開始
10/2（木）	『私の部屋でランチを』

※週刊NEWSLETTER302号は10月6日（月）に配信します